

## 地域計画特論(5) 密教の思想(現実肯定型の宗教観)

### ■顕教と密教

### ■密教の基本思想

### ■密教の展開

### ■密教の修行

### ■密教のほとけ



### ■仏教における実践方法(復習)

要するに「空」の世界を理解した執着のない境地に至るための方法論(具体的技術)

1) ヨーガ ⇒ 身体的な修行 ⇒ 一部「禪」にいたる

< ヨーガは健康法のようになってしまった >

< 瞑想によって心を無にするアフローチ >

< 中国で完成された方法 >

2) 密教: 自由にいけるようになる ⇒ 神通力を身につける

< 自分を高める修行をして、超能力を得る >

< 大日如来: 宇宙と一体化する >

< インド・チベット仏教の形態 >

3) 阿弥陀さまのいうとおりする(自分をなくす) ⇒ 極楽に行く

< 念仏をとる >

< 鎌倉仏教: 他力本願 >

### ■顕教と密教

仏教の分類(1)・・・小乗、大乘 (説明済み)

仏教の分類(2)・・・顕教、密教

・顕教: あきらかな教え

・密教: 秘密の教え

密教は大乘仏教の一部  
といえないこともないが、  
もともと分類軸が異なる  
(最澄と空海の思想の相違)



毘盧舎那仏(奈良の大仏)  
顕教の仏(東大寺は華嚴宗)



大日如来(金剛界)  
密教の仏

もともと「マハー  
ヴァイローチャナ・  
ブツダ」という同じ  
ほとけである。

### ■大乘仏教における三種の仏身

従来の仏教(大乘仏教)において:

法身仏: 真理(法)そのものである仏(いわば神のようなもの)

(無始無終) 毘盧舎那仏・大日如来など

報身仏: 菩薩の修行の報いとして身体を持った仏

(有始無終) 阿弥陀如来・薬師如来など

応身仏: 衆上の要請に応じて身体を持った仏

(有始有終) 釈迦牟尼仏

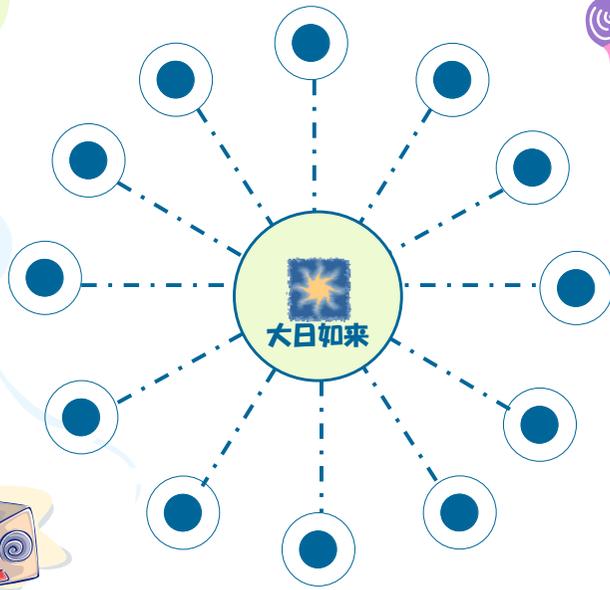
顕教は、歴史上の釈尊を教主とする「応身仏」の説

密教は、宇宙の真理という非人格を教主とする「法身仏」の説

⇒あとで詳しく説明する

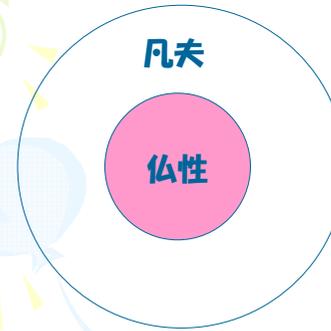
日常生活でも体験を持たない人に言葉や文章で説明するのは極めて難しい。  
宗教体験といとなおさら困難である。言葉や文章で語ることに絶望した。  
「言語道断」という言葉の意味

## ■ 密教の構造



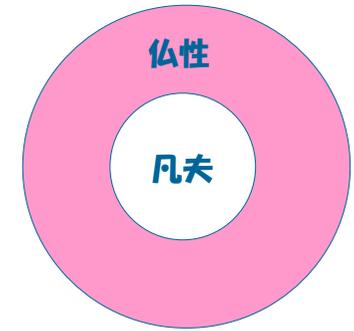
## ■ 禅仏教と浄土仏教

### 禅仏教



- ・自力仏教
  - ・凡夫の奥に仏性が眠っている。
  - ・修行して煩惱をとりのぞく。
- (前回講義済み)

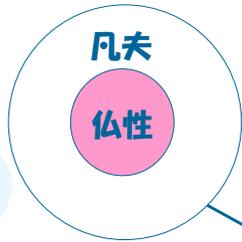
### 浄土仏教



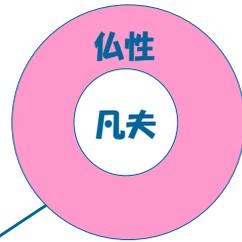
- ・他力仏教
- ・仏の世界に凡夫が包含される。
- ・仏に迎えとっていただく。

## ■ 禅仏教と浄土仏教

### 禅仏教 (B ⊃ H)



### 浄土仏教 (H ⊃ B)



色即是空(上い道)  
空即是色(下い道)



仏性 = 凡夫

密教  
(H = B)



## ■ 般若心経

観自在菩薩、行深般若波羅蜜多時、照見五蘊皆空、度一切苦厄、舍利子、色不異空、空不異色、色即是空、空即是色、受想行識、亦復如是、舍利子、是諸法空相、不生不滅、不垢不淨、不增不減、是故空中、無色無受想行識、無眼耳鼻舌身意、無色声香味触法、無眼界乃至無意識界、無無明亦無無明尽、乃至無老死、亦無老死尽、無苦集滅道、無智亦無得、以無所得故菩提薩埵、依般若波羅蜜多故、心無罣礙、無罣礙故、無有恐怖遠離一切顛倒夢想、究竟涅槃、三世諸佛、依般若波羅蜜多故、得阿耨多羅三藐三菩提、故知般若波羅蜜多、是大神咒、是大明咒、是無上咒、是無等等咒、能除一切苦、真實不虛、故說般若波羅蜜多咒、即說咒曰、揭諦揭諦、波羅揭諦、波羅僧揭諦、菩提薩婆訶、般若心経



摩訶般若波羅蜜多心経

## ■密教のおいたち

### インドの密教

歴史的に分類すると:

- ・六世紀以前の密教・・・前期密教
- ・七世紀～八世紀前半・・・中期密教
- ・八世紀後半以降・・・後期密教

バラモン教、ヒンズー教  
起源の神々を大乘仏教  
が包摂していった。

密教の体系的な経典:

「大日経」「金剛頂経」の成立以前の前期密教を「雑密」

「大日経」「金剛頂経」にもとづく密教を「純密」

後期の密教を「左道密教」という場合が多い。

中期密教のポイント

- 1) 説法の主が釈尊から大日如来に変わる。
- 2) 祈願の目的が現世利益から成仏を目指す。
- 3) 身体、言葉、心のそれぞれの機能に関して、三者の結合が主張される。
- 4) 形成過程にあった曇荼羅がほぼ完成に近づく。
- 5) 仏教思想が希薄であったものが、修法、儀礼が意味づけられる。

## ■中国密教

・「大日経」の中国への伝来

インドにいた中国僧無行により北西インドへ(不幸にも客死)。

長安の華嚴時まで届き保管されていた。

開元四年(716)にインド僧の善無畏(シュバカラシンハ;637

～735)と弟子の一行(中国禪師)が翻訳した。

<大毘盧遮那仏神変加持経>

・「金剛頂経」の中国への伝来

一連の経典群を総称しているため事情は複雑である。狭義の

「金剛頂経」にも2、3種類ある。

インド僧の金剛智(ヴァジュラボーティ;671～741)が「金剛頂

瑜伽中略出念誦経」四巻を翻訳した。

特に活躍したのは、金剛智の弟子、不空(アモーガヴァジュラ;

705～774)⇒中国密教はこのあと次第に降下していった。

## ■日本の密教

金剛頂系

金剛智—不空

恵果—空海

玄超

大日経系

善無畏—一行

恵果は不空の筆頭弟子ではないが  
事実上の付法の弟子。  
「大日経」と「金剛頂経」をセットと  
して確立した。

### ●日本の密教:

仏教の伝来・・・538年と552年と両説がある(歴史で勉強?)  
奈良時代にはすでに「密教経典」が少なからず請来されていた。  
陀羅尼の読誦とそれのともなう簡単な密教儀礼は、奈良時代にも、伝えられていた。

⇒本格的な密教の思想と儀礼の請来は平安時代のはじめ

## ■最澄と空海

本項については次回(空海)に詳しく述べる。

最澄(767～822)

延暦22年(803年)第17次遣唐使船天台宗の還学僧  
法華天台の経論の収集に努める。越州の龍興寺で順曉  
(善無畏の孫弟子)とより密教を学ぶ。禪宗もつたえた。  
天台教学を確立した(顕教)。

空海(774～835)

延暦22年(803年)滞在22年の留学僧として遣唐使船に  
乗船。(偶然にも九州で最澄と同じ一行となる)  
長安に到着、真言・陀羅尼などインドの言語、密教の基礎  
をまなぶ。青龍寺の恵果より伝法を受ける。

## ■天台密教と真言密教

当時の桓武天皇は新規性を好み、天台法華よりも密教に関心を示した。

805最澄帰国

806空海帰国、天台宗に分度者2名が与えられる

812最澄、空海から両部の灌頂を受ける

816空海、高野山を開創、「理趣釈経」の貸与を断る

822最澄没

823東寺、空海に授けられる

835空海没

838円仁、円行ら入唐

天台密教…台密(天台宗の密教)

真言密教…東密(東寺の密教)

## ■密教の修行

人間の活動を三種類にまとめる：  
身・口・意(しん・く・い)

一般の仏教では、この日常的な三種の活動は煩惱(自己中心的欲望)からおこり、汚れている。不断の修行によって、それぞれの活動を磨き上げ、少しでも完全な悟りの世界に近づくように心掛けるのが基本的姿勢であるとする。

⇒密教では、人間のあらゆる活動は本来的に見れば、仏の活動にほかならないとみる。(大日如来と一体化する)

密教における修行は「身体と言葉と心」の三つを総動員して精神の統一状態を維持することが基本となります。身密(手に印を結び)、口密(真言を唱え)、意密(意念を仏に寄せる)を以って精神の統一状態に入り、これを持続(等持)させることを三密行という。

## ■印契

印(ムドラー)とは仏や菩薩の悟りの内容を手指の形や荷物で象徴として表現したもの、宇宙の一面を凝縮してかたちにとったもの。

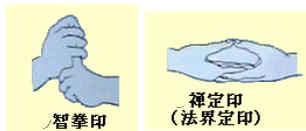
⇒印をみることによって、姿や持ち物と同様に仏の名前や性格を知ることができる。

大日如来も2種類ある(マンダラの話は後にするが…)

金剛界大日如来…智拳印

胎蔵界の大日如来…法界定印

(胎蔵界というのは俗称)



⇒興味があれば、どこかの仏像をみてみよう。印や持ち物はみんなちがう。(理解できると結構面白い)

## ■真言・陀羅尼・呪

真言・陀羅尼・呪は通常サンスクリット文字(梵字)を羅列した意味不明の言葉として用いられている。特に区別はないが、しいていえば、短いのが真言、長いのが陀羅尼、呪は長短さまざまある。

般若心経の最後の部分にあるのが呪  
(もう一度みてみよう):

単なる音声とか言語ではなくて、宇宙の真理を集約したものと見られる。したがって、真言は神を讃嘆し、その恩恵にあずかるという利益の獲得を目指すだけでなく、真言の持つ真理性のために、除災の機能を持つと見なされ、さらに真言を唱えることによって、天地の運行を左右することができると考えられた。

⇒行者は印契を結び、行者が仏そのものとなり、同時に行者が口に真言を唱えるとき、仏の言葉が行者の口を借りて出てくる

## ■密教のほとけ

密教では、一つの「ほとけ」が「自性輪身」(じしょうりんじん)、「正法輪身」(しょうぼうりんじん)、「教令輪身」(きょうりょうりんじん)という3つの姿で現れるとする。「自性輪身」(如来)は、宇宙の真理、悟りの境地そのものを指し、「正法輪身」(菩薩)は、説法する姿を指し、「教令輪身」は、仏法に従わない者を教化し、仏敵を退散させる、実践的な働きを指す。

		如来部(金剛界)	如来部(胎藏界)	菩薩部	明王部
	五智	自性輪身	自性輪身	正法輪身	教令輪身
中尊	法界体性智	大日如来	大日如来	金剛波羅蜜菩薩	不動明王
東尊	大円鏡智	阿閼如来	宝幢如来	金剛薩た菩薩	降三世明王
南尊	平等智	宝生如来	開敷華王如来	金剛宝菩薩	軍荼明王
西尊	妙觀察智	無量寿如来	無量寿如来	金剛法菩薩	大威徳明王
北尊	成所作智	不空成就如来	天鼓雷音如来	金剛利菩薩	金剛夜叉明王

## ■地藏菩薩



菩薩は基本的に在家の人間であるので、菩薩像はあれこれ装飾具を身につけているのが特色である。  
(首飾り、胸飾り、ブレスレット、イヤリングなど)

地藏菩薩は「頭を丸めた僧形」で造像されている場合が多い

観音と同様に六道を輪廻する人々をすべて救済する。同じ地藏も種類の姿をもつので六地藏という(いそがしいので、服装や装飾を気にしてられない?)

密教においては、五穀豊穡、敬愛和合、立身出世、悪人調伏、地中の埋蔵物発見などに靈験あり

**[真言]: オン・カカカ・ビサンマエイ・ソワカ**

## ■不動明王

サンスクリットではAcalanatha(アチャラナータ:古代インドではシヴァ神の異名)と言う。「アチャラ」は「動かない」、「ナータ」は「守護者」を意味し、全体としては「不動の守護者」の意味である。チベット密教等ではCandamaharosana(チャンドマハローシャナ)と言うが、日本に伝えられた不動明王とは図像的に全く異なるものである



不動明王は悪を罰するだけでなく、修行者を加護し、修行の効を達成させる慈悲の存在とも伝えられる。荒行中の荒行とされる天台宗の千日回峰行では必ず不動明王の真言をと念える。

すべての凡俗のことに効果があるが、特に怨敵調伏、勝負必勝、立身出世、商売繁盛に靈験あらたかであるとされる。

**[慈救呪(じくじゆ)]: /ウマク サマンダバザラダン センダマ  
カロシャダ ソワタヤウン タラタカンマン**

## ■今回の参考文献

1. 松長有慶:密教・コスモスとマンダラ、NHKブックス、日本放送出版協会、1985.
2. 頼富本宏:密教 悟いとほとけへの道、講談社現代新書、1988.
3. 末木文美士、日本仏教史、思想史としてのアフロ一千、新潮文庫、1992.
4. 速水侑:観音・地藏・不動、講談社現代新書、1996.
5. 花山勝友:図解密教のすべて、PHP研究所、1994.
6. 金岡秀友:密教の哲学、講談社現代新書、1989.
7. ひろさちや:密教の読み方、徳間文庫、1990.
8. Books Esoterica 密教の本 驚くべき秘儀・修法の世界、学習研究社、1992.